

3

パソコンを持ち歩く

本章では、パソコンをバッテリー駆動で使用するときについて説明します。

- | | | |
|---|-------------------|----|
| 1 | バッテリーを使う | 80 |
| 2 | 大容量バッテリーを使う | 86 |
| 3 | バッテリーを節約する | 91 |

1 バッテリーを使う

バッテリーを充電して、または充電したバッテリーパックと交換して、バッテリー駆動（ACアダプタを接続しない状態）で使うことができます。



・バッテリー駆動時、CPUは450MHz相当の周波数で動作します。
600MHzで動作させる場合は、ACアダプタの接続が必要です。

ご購入時には、バッテリーはフル充電されていません。
本製品をはじめてお使いになるときは、バッテリーを充電してからお使いください。

☞ バッテリーの充電 ☞ 「1章 4 バッテリーの充電」

また、本製品には標準添付のバッテリーパックの他に大容量バッテリー（別売り）が用意されています。

☞ 大容量バッテリー ☞ 「本章 2 大容量バッテリーを使う」



・大容量バッテリーパック（別売り：PABAL001）も使用できます。

1 バッテリー充電量を確認する

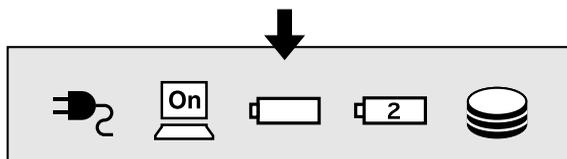
バッテリー駆動で使う場合、バッテリー充電量を確認しておかないと使用中にバッテリーの充電量が減少し、途中で作業を中断したり、あわてて電源コードを接続することになります。

バッテリー充電量を確認するには、次の方法があります。

● Main Battery LEDで確認する

ACアダプタを接続したとき、Main Battery  LEDが緑色に点灯するとフル充電の状態です。

オレンジ色に点灯あるいは点滅した場合は、バッテリーの充電が必要です。

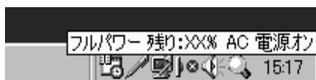


● アイコンで確認する

タスクバーの省電力アイコン（）の上にポインタを置くと、バッテリー充電量が表示されます。

画面は Windows 98 の表示例です。

- AC アダプタを接続している場合
- バッテリー駆動で使用している場合



このときバッテリー充電量以外にも、現在使用している省電力モード名や、使用している電源の種類が表示されます。バッテリー駆動で使用している場合には、バッテリー動作予想時間も表示されます。



メモ

- ・タスクバーに表示される省電力アイコンの絵は現在使用されている省電力モードにより変わります。
- ・東芝省電力ユーティリティの「電源設定」タブの設定内容によっては、タスクバーに省電力アイコンが表示されません。表示させたいときは、「電源設定」タブで「タスクバーに省電力モードの状態を表示する」をチェックしてください。

② 時計用バッテリー

本製品には取りはずし可能なバッテリーパックの他に、内蔵バッテリーとして、時計用バッテリーがあります。時計用バッテリーは、内蔵時計を動かすためのものです。

時計用バッテリーの充電完了までの時間は次のとおりですが、実際には充電完了まで待たなくても使用可能です。また、充電状態を知ることはできません。

状態	時間
AC アダプタを接続している (Power  LED が点灯)	10 時間以上



メモ

- ・時計用バッテリーの充電は、AC アダプタを接続しているときに行われますので、普通に使用している場合は、あまり意識して行う必要はありません。
- ただし、あまり充電されていない場合、時計が止まったり、遅れたりすることがあります。

3 バッテリーの使用時間

電源として使われるバッテリーの使用時間は、充電量や使用状態により差があります。



注意 ・バッテリー駆動で使用しているときは、バッテリーの容量に十分注意してください。

バッテリー（バッテリーパック、時計用バッテリー）を使いきってしまうと、時刻や日付に誤差が生じます。このような場合は、ACアダプタを接続して、一度全バッテリーを充電してください。

● バッテリー駆動での使用時間

バッテリー駆動での使用時間は、本パソコンの使用環境によって異なります。次の数字は目安です。

● 充電完了の状態で使用した場合

省電力モード	標準バッテリーパック	標準バッテリーパックと大容量バッテリーの両方
ロングライフ	約 1.7 時間	約 7.3 時間

(注) 当社オリジナルプログラムで計測

☞ 大容量バッテリーについて ☞ 「本章 2 大容量バッテリーを使う」

パソコン本体を使用しないで放置していても、バッテリーは自然に放電します。この場合も放置環境などに左右されますので、放置時間は目安として参考にしてください。

フル充電したバッテリーパックをパソコン本体に取り付け、電源を切った状態で放置した場合、放電しきるまでの時間：約 18 日間



お願ひ

- ・スタンバイを実行している場合、バッテリーの取りはずしはしないでください。取りはずすとスタンバイが無効になり、データが消失するおそれがあります。
- ・スタンバイを実行している場合、放電しきるまでの時間は約 2 日になります。



メモ

- ・休止状態を実行している場合、バッテリーパックをパソコン本体から取りはずしておいた方が、バッテリーの放電時間は長くなります。

● バッテリー充電量が減少したとき

電源が入っている状態でバッテリー充電量の減少が進むと、パソコン本体は次のように警告します。

- Main Battery  LED がオレンジ色の点滅を始める
- 警告音が鳴る

この場合はただちに AC アダプタを接続してください。

AC アダプタを接続しない場合、スタンバイまたは休止状態により、パソコン本体の電源は自動的に切れます。引き続きバッテリー駆動で使用するときは、バッテリーを充電してください。



メモ

- ・長時間使用しないでバッテリーが自然に放電してしまったときは、警告音でも Main Battery  LED でも知ることができません。



お願い

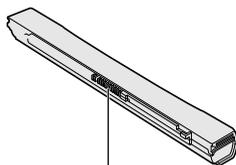
- ・パソコン本体をバッテリー駆動で使うときは、定期的に充電してください。
- ・AC アダプタをコンセントにつなげたままで放置しないでください。
- ・バッテリーパックは長期間使用すると充電機能が低下します。これはバッテリーの寿命ですので、別売りのバッテリーパックと交換してください。

4 バッテリーパックを交換する

本製品には標準でバッテリーパックが取り付けられています。このバッテリーパックは着脱可能で、約500回程度の充電をすることができます。長期間の使用の後、充電機能が低下するようになったら、別売りのバッテリーパックと交換してください。この別売りのバッテリーパックの取り扱いには標準装備のバッテリーパックとまったく同じです。

このパソコン対応の製品以外のバッテリーパックは使用しないでください。

- 注意**
- ・バッテリーパックの電極や、バッテリーパックを取り付けるパソコン側の電極をショートさせないでください。また、バッテリーパックをバックなどに入れて持ち運ぶときは、ビニールなどに包んで、電極が金属にふれないようにしてください。電極がショートすると発熱、発火などのおそれがあります。
 - ・バッテリーパックを加熱したり、分解したり、ショートさせたり、火の中へ投入したりしないでください。破裂や火災のおそれがあります。



バッテリーパックの電極



バッテリーパック用電極

● バッテリーパックの取りはずし／取り付け

- 警告**
- ・バッテリーパックは、必ずこのパソコン対応の製品を使用してください。また、寿命などで交換する場合は、指定の製品をお買い求めください。指定以外の製品は、電圧や端子の極性が異なることがあるため、発煙・火災のおそれがあります。



お願い

- ・スタンバイを実行してもバッテリーパックを取りはずすとスタンバイが無効になるため、データは消失します。データを保存し、Windowsを終了してから、バッテリーパックを取りはずしてください。

1 データを保存して、Windowsを終了し、パソコン本体の電源を切る

休止状態を実行して電源を切り、バッテリーパックの取りはずし／取り付けを行うこともできます。

☞ 休止状態 ☞ 「2章 3 電源を切る」

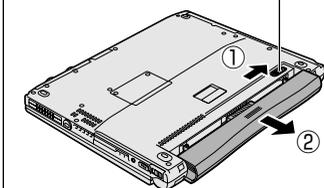
2 ACアダプタや周辺機器のケーブルをははずす

3 ディスプレイを閉じて、パソコン本体を裏返す

4 バッテリー・リリーススラッチをスライドしながら①、バッテリーパックを取りはずす②

ゆっくり引いてください。

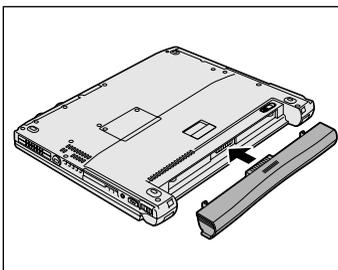
バッテリー・リリーススラッチ



⚠ 注意 ・バッテリーパックは、無理な力を加えずに静かに取りはずしてください。いきおいよくはずすと、バッテリーパックが足の上などに落ち、思わぬケガのおそれがあります。

5 交換するバッテリーパックを、カチッという音がするまで、静かに差し込む

バッテリー・リリーススラッチが左へ移動します。



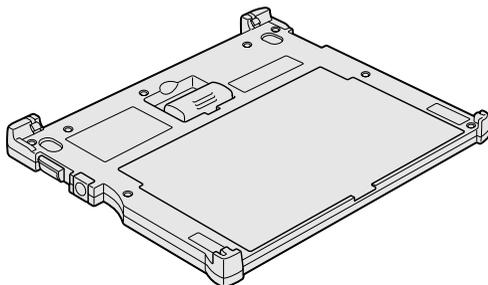
⚠ 注意 ・バッテリーパックはしっかりと取り付けられているかどうか、必ず確認してください。正しく装着されていないと、持ち運びのときにバッテリーパックがはずれ落ちて、思わぬケガのおそれがあります。

2 大容量バッテリーを使う

本製品には、標準添付のバッテリーパックの他に、大容量バッテリー（別売り）が用意されています。

標準バッテリーパックと大容量バッテリーを同時に使用することにより、長時間バッテリー駆動で 사용할 ことができます。

大容量バッテリーとは、大容量バッテリーパックを大容量バッテリーアダプタに取り付けた状態を指します。



充電方法、充電時間、バッテリーでの使用時間については、標準バッテリーパックとあわせて説明していますので、参照ください。

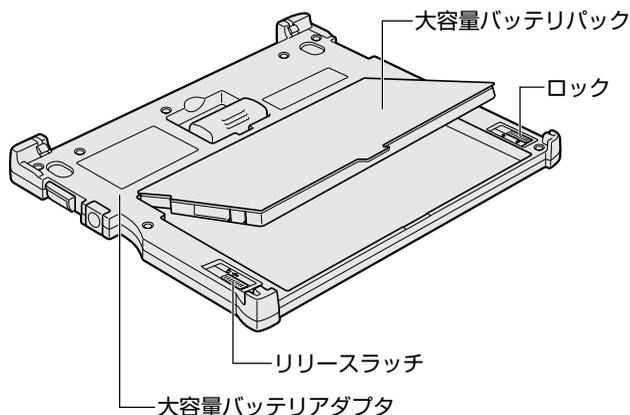
- 🔋 充電方法や充電時間 ⇨ 「1 章 4 バッテリーの充電」
- 🔋 バッテリーでの使用時間 ⇨ 「本章 1-3- バッテリー駆動での使用時間」



お願い

・スタンバイを実行しているとき、標準バッテリーパックと大容量バッテリーの両方を取りはずすとスタンバイが無効になるため、データは消失します。

① 大容量バッテリーパックの取り付け／取りはずし



● 取り付け

- 1 大容量バッテリーパックを、大容量バッテリーアダプタに合わせて斜め上から差し込む
- 2 カチッと音がする位置にはめ込む
大容量バッテリーアダプタ左側のリリースラッチが手前に移動します。
- 3 大容量バッテリーアダプタ右側のロックを手前にスライドする
大容量バッテリーパックがロックされます。

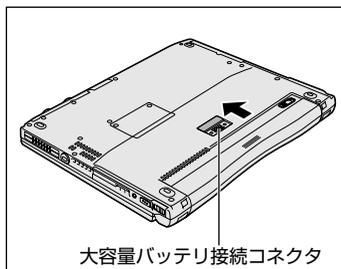
● 取りはずし

- 1 パソコン本体に大容量バッテリーを接続している場合は、パソコン本体の電源を切り、大容量バッテリーを取りはずす
☞ 「本節 2 パソコン本体への取り付け／取りはずし」
- 2 大容量バッテリーアダプタ右側のロックを奥側にスライドする
大容量バッテリーパックのロックが解除されます。
- 3 大容量バッテリーアダプタ左側のリリースラッチを奥側にスライドし、大容量バッテリーパックの手前を持ち上げる
- 4 大容量バッテリーパックをしっかりとつかみ、手前に引き抜く

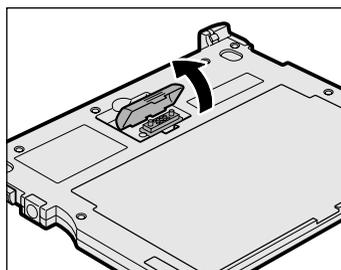
② パソコン本体への取り付け／取りはずし

● 取り付け

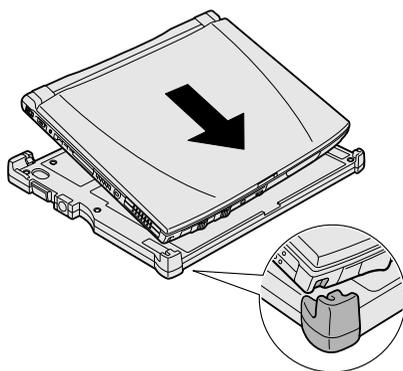
- 1 データを保存して、Windows を終了し、パソコン本体の電源を切る
- 2 ACアダプタや周辺機器のケーブルをはずす
- 3 パソコン本体を裏返し、大容量バッテリー接続コネクタのカバーを開く



- 4 大容量バッテリーのコネクタカバーを開く

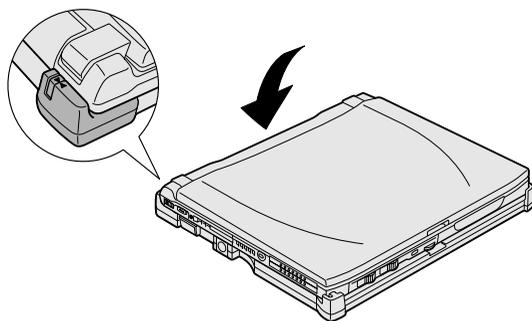


- 5 パソコン本体前面のへこみに、大容量バッテリーの両端のツメをはめる



6 パソコン本体の背面を押す

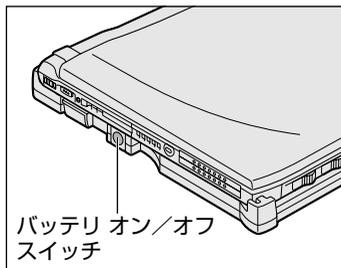
背面にある大容量バッテリーのラッチがはまるのを確認してください。きちんとはまると図のように▶と◀が重なります。



注意 ・大容量バッテリーはしっかりと取り付けられているかどうか、必ず確認してください。正しく取り付けられていないと、持ち運びのときに大容量バッテリーがはずれ落ちて、思わぬケガのおそれがあります。

7 大容量バッテリーのバッテリー オン／オフ スイッチを押す

スイッチがへこみ、大容量バッテリーが使用可能な状態になります。



● 取りはずし

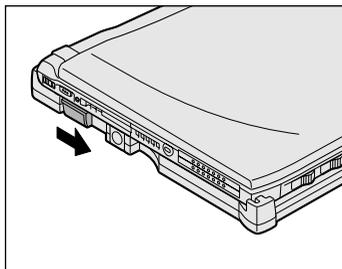
1 データを保存して、Windows を終了し、パソコン本体の電源を切る

2 AC アダプタや周辺機器のケーブルをはずす

3 イジェクトレバーをスライドする

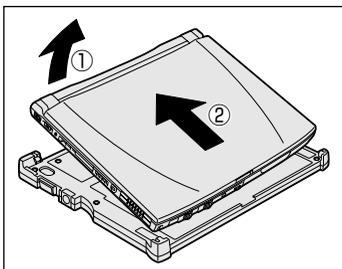
パソコン本体が少し持ち上がります。

レバーは大容量バッテリーの背面にあるラッチがはずれるまできちんとスライドしてください。へこみに指を合わせると楽にスライドできます。



4 大容量バッテリーからパソコン本体を取りはずす

パソコン本体の背面中央を上を持ち上げます。



5 パソコン本体の大容量バッテリー接続コネクタのカバーを閉じる

6 大容量バッテリーのコネクタカバーを閉じる

3 バッテリーを節約する

バッテリー駆動で長時間使用するには、次の方法があります。

- バッテリーの充電を完了（フル充電）する
- バッテリー駆動で使用した後は、バッテリーを充電しておく
- スタンバイまたは休止状態を活用し、こまめに電源を切る
スタンバイや休止状態とは、電源を切った後、次に電源を入れると、以前の状態を再現することができる機能です。
 - ☞ スタンバイ、休止状態
☞ 「5章 1 消費電力を節約する」
- パネルスイッチ機能を活用し、入力しないときは、ディスプレイを閉じておく
 - ☞ パネルスイッチ機能 ☞ 「2章 3 電源を切る」
- 省電力に設定する
 - ☞ 省電力設定 ☞ 「5章 1 消費電力を節約する」

4

ハードウェアについて

本章では、各ハードウェアについて説明します。
注意事項を守り、正しく取り扱ってください。

- 1** 周辺機器の取り付けについて 94
- 2** 機能を拡張する 95
- 3** PC カードを使う 100
- 4** フロッピーディスクを使う 104
- 5** LAN に接続する 107
- 6** USB 機器を接続する 114
- 7** CRT ディスプレイを接続する 115
- 8** メモリを増設する 117

周辺機器の取り付けについて

本書で説明していない周辺機器については、それぞれの周辺機器に付属の説明書を参考にしてください。

取り付け／取りはずしの方法は周辺機器によって違います。各項を読んでから作業してください。



注意

- ・ホットインサージョン（パソコン動作中の取り付け／取りはずし）が認められていない周辺機器を接続する場合は、必ず電源を切り、電源コードのプラグを抜いてから作業を行なってください。電源を入れたまま接続すると、感電・故障のおそれがあります。
- ・パソコン本体に周辺機器を取り付けた状態で持ち運ばないでください。故障の原因となります。



お願い

- ・適切な温度範囲内、湿度範囲内であっても、結露しないように急激な温度変化を与えないでください。冬場は特に注意してください。
- ・湿気やホコリが少なく、直射日光の当たらない場所で作業してください。
- ・静電気が発生しやすい環境では作業しないでください。
- ・作業時に使用するドライバは、ネジの形、大きさにあったものを使用してください。
- ・本製品を改造すると、保証やその後のサポートは受けられません。



メモ

- ・本書で説明している周辺機器や機能を使用するには別途市販の機器が必要な場合があります。

パソコン本体へのケーブルの接続

次の点に注意して接続してください。

- ・PCカードやコネクタの上下を合わせる
- ・ケーブルのコネクタに固定用ネジがある場合は、ケーブルがはずれないようにネジを締める



お願い

- ・ケーブルなどを接続するときは、コネクタの形状に注意して正しく差し込んでください。コネクタに無理な力が加わるとピンが折れたり、曲がったりします。

周辺機器を使用するときは、この他に作業が必要なことがあります。また、その必要な作業は使用するシステムで異なることがあります。それぞれの周辺機器に付属の説明書をお読みください。

2 機能を拡張する

本製品右側面の拡張コネクタには、別売りのI/Oアダプタ、ミニI/Oアダプタ、マルチメディアポートリプリケータのいずれかを接続して使用することができます。



お願い

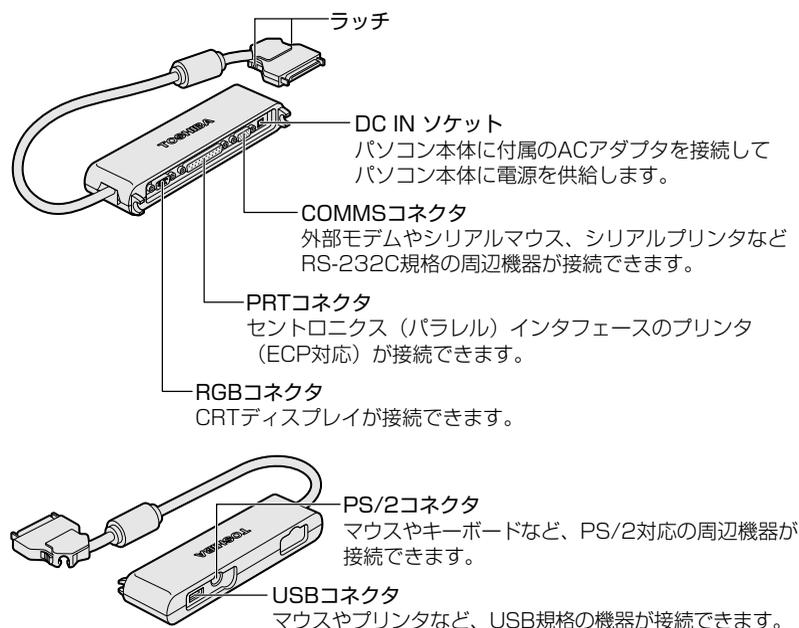
・上記の機器のいずれかを接続している場合、CRTディスプレイはパソコン本体ではなく、接続した機器側のRGBコネクタに接続してください。

I/Oアダプタ

I/Oアダプタを接続することで、次の周辺機器が使用できます。

- セントロニクス（パラレル）インタフェースのプリンタ
- RS-232C規格の周辺機器（シリアルマウスや外付けモデムなど）
- CRTディスプレイ
- PS/2マウスやキーボード
- USB規格の周辺機器

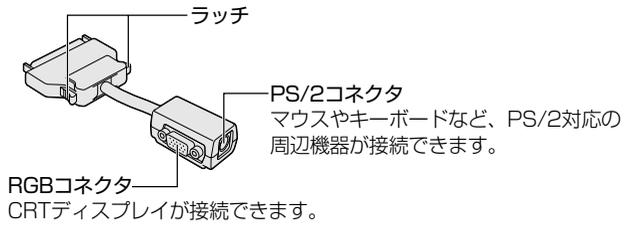
DC INソケットには、パソコン本体に付属のACアダプタを接続して使用できます。ACアダプタと電源コードを接続すると、I/Oアダプタを通して、パソコン本体に電源を供給することができます。



● ミニ I/O アダプタ

ミニ I/O アダプタを接続することで、次の周辺機器が使用できます。

- CRT ディスプレイ
- PS/2 マウスやキーボード



● マルチメディアポートリプリケータ

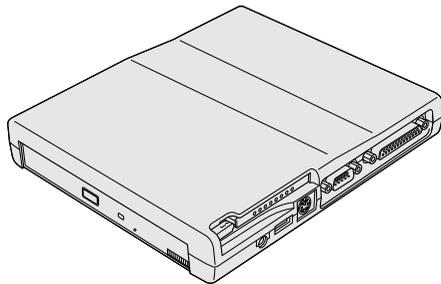


お解い

・パソコン本体にマルチメディアポートリプリケータを接続して使用する場合は、必ずマルチメディアポートリプリケータの電源コネクタにACアダプタを接続してください。パソコン本体の電源コネクタにACアダプタを接続すると、正しく動作しません。
また、バッテリー駆動で使用すると、パソコンの電源が切れる場合があります。

マルチメディアポートリプリケータを接続すると、次のような使いかたができます。

- ACアダプタを接続して、パソコン本体に電源を供給する
- CD-ROMドライブを使用する
ハードディスクドライブ（別売り）と交換できます。
- 周辺機器を使用する
 - ・RS-232C規格の周辺機器
 - ・セントロニクス（パラレル）インタフェースのプリンタ
 - ・CRTディスプレイ
 - ・PS/2マウスやキーボード
 - ・USB規格の周辺機器
 - ・PCカード（Type IIのCardBus対応カード）
 - ・オーディオ機器
- LANに接続する



☞ 詳細について ☜ 『マルチメディアポートリプリケータに付属の説明書』

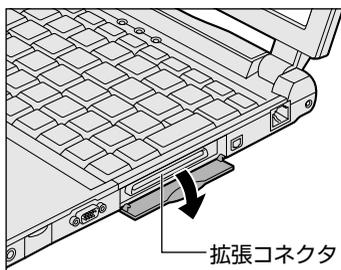
2000 《リリース情報》

● 取り付け

- 1 データを保存して、Windows を終了し、パソコン本体の電源を切る

⚠ 注意 ・本パソコンに電源が入っている状態で、I/O アダプタ、ミニ I/O アダプタ、マルチメディアポートリプリケータの取り付け／取りはずしをしないでください。
故障の原因となります。

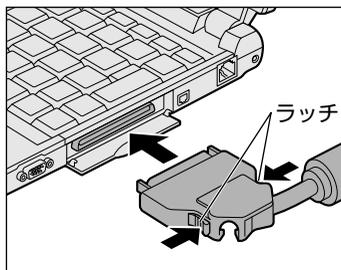
- 2 パソコン本体のコネクタカバーを開く



- 3 接続ケーブルのコネクタを、上下を確認し接続する

コネクタはラッチを押しながら取り付けてください。

*イラストは I/O アダプタのケーブルです。



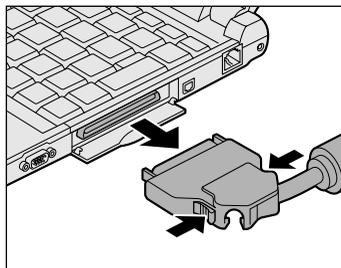
● 取りはずし

1 データを保存して、Windows を終了し、パソコン本体の電源を切る

2 パソコン本体から接続ケーブルを取りはずす

コネクタのラッチを押しながらか取りはずしてください。

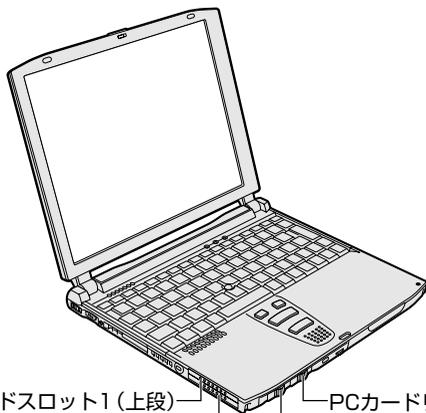
ケーブルを引っ張らないようにしてください。



3 コネクタカバーを閉じる

3 PCカードを使う

PCカードスロットには、PC Card Standard TYPE II／Ⅲ(3.3V、5V)に対応したPCカードを2枚まで取り付けることができます(TYPE Ⅲの場合は、1枚のみ)。



PCカードスロット1(上段)
PCカードスロット0(下段)

PCカードリリースレバー0
PCカードスロット0に入っている
PCカードを取り出します。

PCカードリリースレバー1
PCカードスロット1に入っている
PCカードを取り出します。



注意

・ホットインサクションに対応していないPCカードを使用する場合は、必ずパソコンの電源を切ってから取り付けてください。電源を入れたまま取り付けると、パソコンやPCカードが故障するおそれがあります。



メモ

・ホットインサクション

パソコン本体の電源を入れたままで、PCカードの取り付け／取りはずしをすることをいいます。ただし、PCカードによっては、この機能に対応していないものもあります。

・市販されているPCカードには、自己発熱の大きいものがあります。このようなカードを長時間動作させると、自己発熱の影響により、カードの動作が不安定になる場合があります。また、他のカードと一緒に使用すると、熱の影響により、他のカードの動作も不安定になる場合があります。

使用できる PC カードのタイプは、取り付けるスロットによって異なります。

使用スロット	使用可能タイプ
1 (上段)	TYPE II
0 (下段)	TYPE II/III

PC カードの例を次にあげます。

- ・モデムカード
- ・SCSI アダプタ
- ・フラッシュメモリ
- ・CardBus 対応のカード



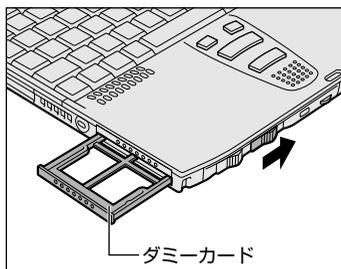
・スロット 0 に TYPE III の PC カードを取り付けた場合には、スロット 1 に PC カードを取り付けることはできません。

『PC カードに付属の説明書』

● 取り付け

1 PC カードリリースレバーを右へスライドする

ダミーカードが出てきます。



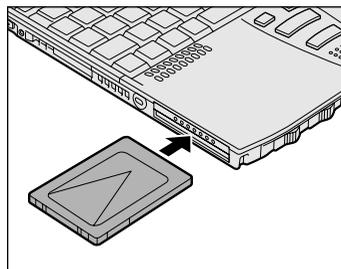
2 ダミーカードを抜く

ダミーカードはなくさないように、保管してください。

3 上下や方向を確認し、PC カードを挿入する

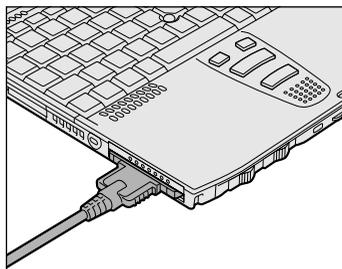
PC カードを確実に接続するために、無理な力を加えずに、PC カードがつきあたるまで、静かに押ししてください。

PC カードが十分に押し込まれると PC カードリリースレバーが左に移動します。



4 PCカードにケーブルをつける

LANカードなど、ケーブルが必要なカードの場合は、ケーブルを接続してください。



カードを接続した後、カードを使用できる環境かどうかを確認してください。

☞ PCカードの環境の設定 ☜ 『PCカードに付属の説明書』



注意 ・ケーブルを取り付けたまま、持ち運ばないでください。ケーブルのコネクタが破損するおそれがあります。



お願い

・ケーブルを取り付けた状態で、ケーブルを強く引っ張らないでください。PCカードが抜けることがあります。

● 取りはずし



注意 ・PCカードの使用終了は必ず行なってください。使用終了せずにPCカードを取りはずすとシステムが致命的影響を受ける場合があります。
・ホットインサクションに対応していないPCカードを使用する場合は、必ず電源を切ってからPCカードを取りはずしてください。電源を入れたまま取りはずすと、パソコンやPCカードが故障するおそれがあります。



お願い

・PCカードをアプリケーションやシステムで使用していないことを確認してから、取りはずしを行なってください。

1 PCカードの使用を終了する

98

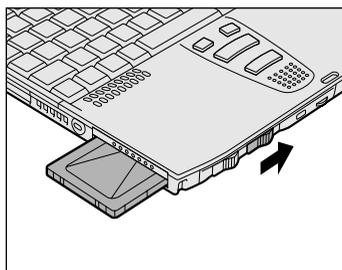
- ① タスクバーにある [PC カード] アイコン () をダブルクリックする
- ② 表示される画面で、停止する PC カードを選択し、[停止] ボタンをクリックする
- ③ 「このデバイスは安全に取りはずせます」が表示されたら、[OK] ボタンをクリックする

2000

- ① タスクバーにある [ハードウェアの取り外しまたは取り出し] アイコン () をダブルクリックする
- ② 表示される画面で、停止する PC カードを選択し、[停止] ボタンをクリックする
- ② 表示される画面で、停止する PC カードを確認し、[OK] ボタンをクリックする
- ③ 「安全に取り外すことができます」が表示されたら、[OK] ボタンをクリックする

2 PC カードリリースレバーを右にスライドする

カードが少し出てきます。



3 カードをしっかりとつかみ、引き抜く

4 ダミーカードを挿入する

4 フロッピーディスクを使う

本製品には、別売りでUSB接続タイプのコピーディスクドライブが用意されています。

1 フロッピーディスク

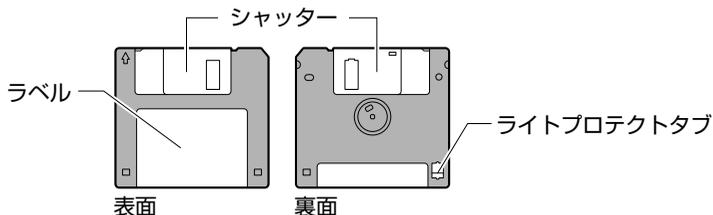
使用できるフロッピーディスクの種類と、保存できる容量は次のとおりです。

フロッピーディスクの種類	1枚に保存できる容量
2DDタイプ	720KB
2HDタイプ	1.2MB
2HDタイプ	1.44MB

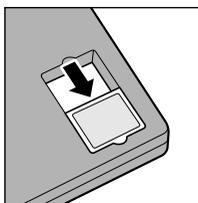
1枚あたりに保存できる容量は、フォーマットのときに指定します。

● ライトプロテクトタブ

フロッピーディスクは、ライトプロテクトタブを移動することにより、誤ってデータを消したりしないようにすることができます。

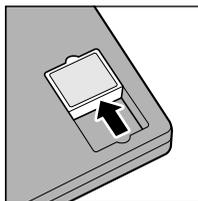


書き込み禁止状態



ライトプロテクトタブを「カチッ」と音がするまで移動させて、穴が開いた状態にします。
この状態のフロッピーディスクには、データの書き込みはできません。
データの読み取りはできます。

書き込み可能状態



ライトプロテクトタブを「カチッ」と音がするまで移動させて、穴が閉じた状態にします。
この状態のフロッピーディスクには、データの書き込みも読み取りもできます。

② フロッピーディスクドライブ

フロッピーディスクドライブの取り付け／取りはずしについては「本章 6 USB 機器を接続する」をご覧ください。



● 使用上のお願い

フロッピーディスクドライブをお使いになる場合は、次のことに注意してください。

- フロッピーディスクドライブを、斜めや垂直、上下逆さまに置いた状態で使用しないでください。必ず水平に置いて使用してください。データが消失したり、フロッピーディスク、フロッピーディスクドライブ、パソコン本体が壊れる可能性があります。
- フロッピーディスクドライブの上にものを置いたり、無理な力を加えないでください（動作時も含む）。データが消失したり、フロッピーディスク、フロッピーディスクドライブが壊れる可能性があります。
- フロッピーディスクドライブとパソコン本体を持ち運ぶときは、フロッピーディスクドライブをパソコン本体から取りはずしてください。
- フロッピーディスクドライブにフロッピーディスクを入れたまま持ち運ばないでください。



注意

・パソコンがフロッピーディスクを読み書きしているとき（フロッピーディスクドライブのLEDが点灯しているとき）に、電源を切ったり、ケーブルを抜いたりしないでください。データやフロッピーディスク、フロッピーディスクドライブが壊れるおそれがあります。

● フロッピーディスクから起動する

フロッピーディスクから起動する場合は、次の設定を行なってください。

- 1 [スタート] - [設定] - [コントロールパネル] をクリックし、[東芝 HW セットアップ] をダブルクリックする
- 2 [USB] タブで [USB -FDD Legacy Emulation] を「Enabled」に設定する



メモ

・通常は [USB -FDD Legacy Emulation] を「Disabled」に設定しておいてください。

■ 98

起動フロッピーディスクの CONFIG.SYS に EMM386.EXE の行がある場合は、「X=EC00-EFFF X=C000-CFFF」を追加してください。
CONFIG.SYS の例（下線部を追加してください）

DEVICE=A:¥EMM386.EXE RAM X=EC00-EFFF X=C000-CFFF

5 LAN に接続する

本製品には、Fast Ethernet (100BASE-TX)、Ethernet (10BASE-T)に対応したLAN インタフェースが内蔵されています。本製品のLAN コネクタにLAN ケーブルを接続すると、Fast Ethernet、Ethernet であるかを検出し、自動的に切り替えます。

ここでは、LAN ケーブルの接続、LAN インタフェースをご使用になる際の注意事項を説明します。



注意

・ご購入時は、ネットワークの設定は既定値になっています。Windows のセットアップ時にLAN ケーブルを接続していると、ネットワークの設定が既定値のままネットワークに接続してしまう、ネットワークに障害をもたらす場合があります。必ず、LAN ケーブルをはずした状態でWindows のセットアップを行なってください。



お願い

・ネットワーク設定は、ネットワーク管理者の指示に従ってください。

1 LAN ケーブルの接続

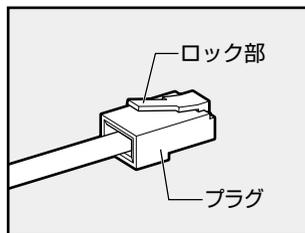
LAN インタフェースを 100BASE-TX 規格 (100Mbps) でご使用になるときは、必ずカテゴリ 5 (CAT5) のケーブルおよびコネクタを使用してください。カテゴリ 3 のケーブルは使用できません。

10BASE-T 規格 (10Mbps) でご使用になるときは、カテゴリ 3 または 5 のケーブルが使用できます。



お願い

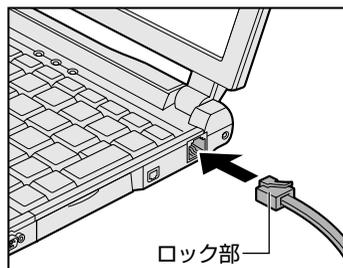
・LAN ケーブルをはずしたり差し込むときは、プラグの部分を持って行ってください。また、はずすときは、プラグのロック部を押しながらかはして行ってください。ケーブルを引っ張らないでください。



1 パソコン本体に接続されているすべての周辺機器の電源を切る

2 LAN ケーブルのプラグを右側面の LAN コネクタに差し込む

ロック部を上にして、パチンと音がするまで差し込んでください。



3 LAN ケーブルのもう一方のプラグを接続先のネットワーク機器のコネクタに差し込む

ネットワーク機器の接続先やネットワークの設定は、ネットワーク管理者にお問い合わせください。

② Windows 98 のネットワーク設定

ネットワークに接続する場合は、ネットワークの設定を行う必要があります。ネットワークの設定内容は、ネットワーク環境によって異なります。接続するネットワークの、ネットワーク管理者の指示に従って設定を行なってください。購入時は既定値 (Default) が設定されています。既定値のままネットワークに接続すると、ネットワークに障害をもたらす場合があります。また、セットアップが終了し、Windows 98 の起動時に、ネットワークパスワードを入力する必要がある場合があります。後述の「起動時のパスワードの入力」を参照のうえ、パスワードを入力してください。

● ネットワークの設定

- 1 [スタート] - [設定] - [コントロールパネル] をクリックする
- 2 [ネットワーク] アイコンをダブルクリックする
- 3 [ネットワークの設定] タブで変更を行う

コンピュータに接続されているネットワークアダプタによって、画面内のアダプタ名は異なります。



(表示例)

ネットワーク管理者の指示に従い、ネットワークの設定を行なってください。

- ネットワーククライアント ... 他のコンピュータに接続する機能です。
- プロトコル コンピュータが通信するための言語です。
通信する複数のコンピュータ同士は、
同じプロトコルを使用する必要があります。
- アダプタ コンピュータを物理的に接続するハード
ウェアデバイスです。
- サービス このコンピュータのファイルやプリンタ
などのリソースを、他のコンピュータ
から使えるようにします。

4 [識別情報] タブで [コンピュータ名]、[ワークグループ] をネットワーク管理者の指示に従い、設定する



(表示例)



注意

- ・コンピュータ名とワークグループは必ず既定値 (Default、Default_Wg) の状態から変更してください。既定値のままのコンピュータを複数台ネットワークに接続しますと、コンピュータ名が重複し、次のエラーメッセージが表示されますので、必ず重複しないコンピュータ名を付けてください。



5 [アクセスの制御] タブで変更を行う



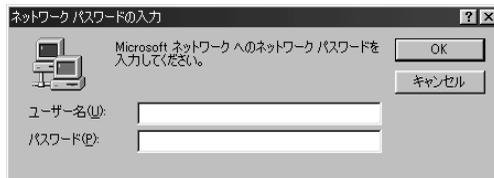
ネットワーク管理者の指示に従い、共有リソースへのアクセス権の管理方法を設定します。

6 設定が終了したら、[OK] ボタンをクリックし、パソコン本体を再起動する

● 起動時のパスワードの入力

- 1 パソコンの電源を入れる
- 2 ネットワーク管理者の指示に従い、ユーザー名と、パスワードを入力する

ここで表示される画面は、ネットワークの設定内容によって異なります(ネットワーククライアントの種類、ドメインサーバにログインするかどうかなど)。ここでは、次の画面を例にあげていますが、他の画面の場合もネットワーク管理者の指示に従い、入力してください。



・パスワードは、忘れないようにメモすることをおすすめします。

3 Windows 2000 のネットワーク設定

ネットワークに接続する場合は、ネットワークの設定を行う必要があります。ネットワークの設定内容は、ネットワーク環境によって異なります。ネットワーク管理者の指示に従って設定を行なってください。



お願い

・ネットワーク設定やコンピュータ識別は、必ずネットワーク管理者の指示に従ってください。

- 1 Administrators グループのユーザアカウントでログオンする
- 2 [スタート] - [設定] - [コントロールパネル] をクリックする
- 3 [ネットワークとダイヤルアップ接続] アイコンをダブルクリックする
- 4 [ローカルエリア接続] アイコンを右クリックし、表示されるメニューから [プロパティ] を選択する
- 5 ネットワーク接続の設定を行う



(表示例)

セットアップ時に設定した構成になっています。

本製品の標準設定の場合、次のようになっています。

- アダプタ : Intel 8255x-based PCI Ethernet Adaptor (10 / 100)
- クライアント : Microsoft ネットワーク用クライアント
- サービス : Microsoft ネットワーク用ファイルとプリンタ共有
- プロトコル : TCP/IP (自動取得)

● ネットワーク上でのコンピュータ識別

- 1 Administrators グループのユーザアカウントでログオンする
- 2 [スタート] - [設定] - [コントロールパネル] をクリックする
- 3 [システム] アイコンをクリックする
- 4 [ネットワーク ID] タブを選択する



5 ネットワーク ID とプロパティの設定をする

コンピュータ名、ドメイン／ワークグループ名はセットアップ時に設定した構成になっています。

変更する場合はここで再設定してください。

6 USB 機器を接続する

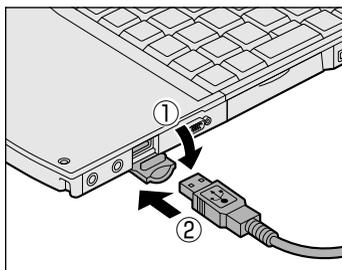
本製品には、USB 規格の機器を取り付けることのできる、USB コネクタが用意されています。

別売りの I/O アダプタまたはマルチメディアポートリプリケータを接続した場合も、USB 機器を使用することができます。

☞ 「本章 2 機能を拡張する」

● 取り付け

- 1 USB コネクタカバーを開け①、USB ケーブルのプラグをパソコン本体の USB コネクタに差し込む②



- 2 USB ケーブルのもう一方のプラグを USB 機器に差し込む
手順 2 が必要ない機器もあります。



お願い

- ・ USB 対応の周辺機器を使用するには、システム (OS)、および周辺機器用ドライバの対応が必要です。
- ・ 今後出荷される USB 対応の周辺機器については、動作確認ができていないためすべての周辺機器の動作を保証することはできません。

● 取りはずし

- 1 パソコン本体と USB 機器に差し込んである USB ケーブルを抜く

☞ USB 機器についての詳細 ⇨ 『USB 機器に付属の説明書』

7 CRT ディスプレイを接続する

RGB コネクタに CRT ディスプレイを接続できます。

CRT ディスプレイを接続してパソコン本体の電源を入れると、本体は自動的にその CRT ディスプレイを認識します。

本製品では VGA と SVGA のビデオモードをサポートしています。

1 取り付け／取りはずし

● 取り付け

1 CRT ディスプレイに付属のケーブルのプラグを RGB コネクタに差し込む

コネクタの形状に注意して正しく差し込んでください。コネクタに無理な力がかわるとピンが折れたり、曲がったりします。

2 CRT ディスプレイに付属のケーブルのもう一方のプラグを CRT ディスプレイのコネクタに差し込む

● 取りはずし

1 RGB コネクタに差し込んである CRT ディスプレイに付属のケーブルのプラグを抜く

2 表示方法の切り替え

CRT ディスプレイを接続した場合、次の表示方法があります。

- ・ CRT ディスプレイだけに表示する（初期設定）
- ・ CRT ディスプレイと内部液晶ディスプレイに同時表示する
- ・ 内部液晶ディスプレイだけに表示する



お願い

- ・ 次のようなときには、表示方法を切り替えしないでください。データが消失するおそれがあります。
 - ・ データの読み込みや書き込みをしている間
エラーになります。データのやり取りが完了するまで待ってください。
 - ・ 通信を行なっている間
エラーになります。通信が完了するまで待ってください。



メモ

- ・ CRT ディスプレイに表示する場合、表示位置や表示幅などが正常に表示されない場合があります。この場合は、CRT ディスプレイ側で、表示位置や表示幅を設定してください。

● 方法 1—画面のプロパティで設定する

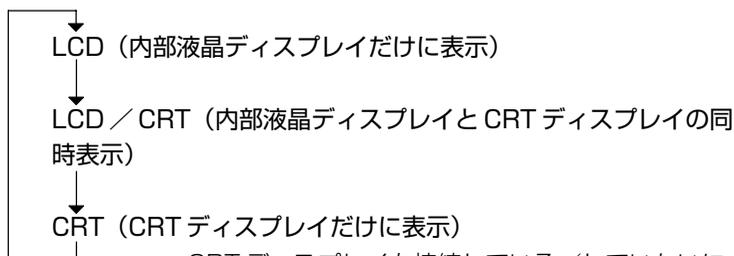
- 1 [スタート] - [設定] - [コントロールパネル] をクリックする
- 2 [画面] をダブルクリックする
- 3 [設定] タブで [詳細] ボタンをクリックする
- 4 [S3DuoView+] タブの [表示デバイス選択] で次のいずれかを選択する
 - LCD 内部液晶ディスプレイだけに表示
 - LCD / CRT 内部液晶ディスプレイと CRT ディスプレイの同時表示
 - CRT CRT ディスプレイだけに表示

● 方法 2—ユーティリティで設定する

- 1 [スタート] - [設定] - [コントロールパネル] をクリックする
- 2 [東芝 HW セットアップ] をダブルクリックする
- 3 [Display] タブで [Power On Display] を設定する
 - Auto-Selected CRT ディスプレイだけに表示 (CRT ディスプレイ接続時)
 - Simultaneous 内部液晶ディスプレイと CRT ディスプレイの同時表示

● 方法 3—[Fn] + [F5] キーを使う

[Fn] キーを押したまま、[F5] キーを押すたびに次の順序で切り替わります。



CRT ディスプレイを接続している / していないに関わらず、内部液晶ディスプレイには何も表示されません。

本製品には、標準で128MBのメモリが取り付けられています。増設メモリスロットに増設メモリ（別売り）を取り付けることにより256MBまで拡張することができます。



警告

・説明されている部分以外は絶対に分解しないでください。内部には高電圧部分が数多くあり、万一ふれると危険です。



注意

- ・増設メモリの取り付け／取りはずしを行う場合は、必ず電源を切り、ACアダプタのプラグとバッテリーパックを抜いてから作業を行ってください。また、スタンバイまたは休止状態を実行しているときは、増設メモリの取り付け／取りはずしを行わないでください。電源を入れたまま取り付け／取りはずしをすると、感電、故障のおそれがあります。
- ・増設メモリを取り付け／取りはずしする場合は、指をはさんだり、ぶつけたりしないように注意してください。
- ・パソコン本体の使用直後は、本体内部にふれないでください。本体内部が高温になっている場合があります、やけどをするおそれがあります。増設メモリの取り付け／取りはずしは、電源を切った後30分以上たってから、行うことをおすすめします。
- ・増設メモリを強く押ししたり、曲げたり、落としたりしないでください。



お願い

- ・増設メモリは、精密な電子部品のため静電気によって致命的損傷を受けることがあります。人間の体はわずかながら静電気を帯びていますので、増設メモリを取り付ける前に、静電気を逃してから作業を行ってください。手近にある金属性のものに軽く指を触れるだけで、静電気を防ぐことができます。
- ・スタンバイまたは休止状態を設定したまま増設メモリの取り付けを行うと、スタンバイまたは休止状態は無効になります。
- ・増設メモリは、本製品で動作が保証されているものをご使用ください。それ以外のメモリを増設するとシステムが起動しなくなったり、動作が不安定になります。

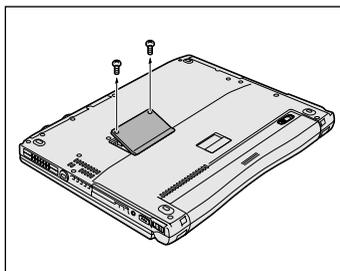
● 取り付け

- 1 データを保存して、Windowsを終了し、パソコン本体の電源を切る
- 2 ACアダプタや周辺機器のケーブルをはずす
- 3 パソコン本体を裏返し、バッテリーパックを取りはずす
- 4 増設メモリカバーのネジをはずす



お願い

・ネジをはずす際は、ネジの種類に合ったドライバを使用してください。



- 5 増設メモリカバーを取りはずす

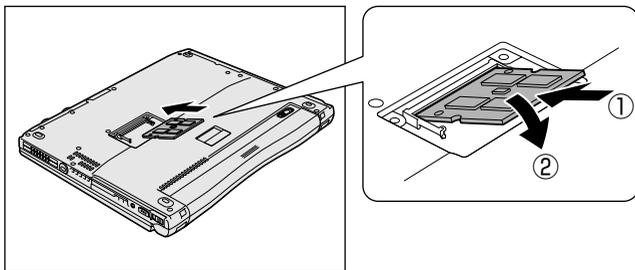


注意

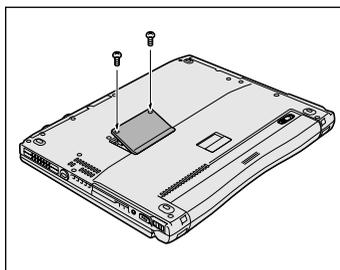
・ステーブル、クリップなどの金属や、コーヒーなどの液体を機械内部に入れないでください。ショート、発煙のおそれがあります。万一、機械内部に金属類が入った場合は、電源を切りプラグを抜いて、お買い上げの販売店、またはお近くの保守サービスに点検を依頼してください。

- 6 増設メモリを増設メモリスロットのコネクタに斜めに挿入し
①、固定するまで増設メモリを倒す②

増設メモリのコネクタを、増設メモリスロットのコネクタのツメに合わせて、しっかり差し込みます。フックがかかりにくいときには、ペン先などで広げてください。



- 7** 増設メモリカバーを取り付けて、手順4ではずしたネジでとめる



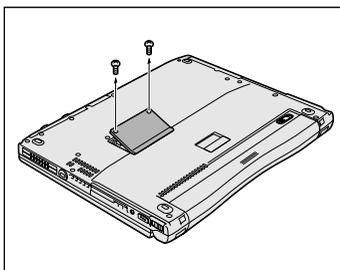
- 8** バッテリパックを取り付ける

パソコン本体の電源を入れたとき、合計のメモリ量が自動的に認識されます。合計のメモリ量が正しいか「PC 診断ツール」などで確認してください。

☞ 「PC 診断ツール」 ⇨ 「付録 1- PC 診断ツール」

● 取りはずし

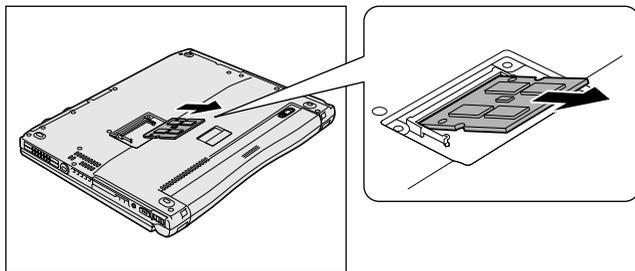
- 1** データを保存して、Windows を終了し、パソコン本体の電源を切る
- 2** ACアダプタや周辺機器のケーブルをはずす
- 3** パソコン本体を裏返し、バッテリーパックを取りはずす
☞ バッテリパックの取りはずし ⇨ 「3章 1-4 バッテリパックを交換する」
- 4** 増設メモリカバーのネジをはずす



お願い

・ネジをはずす際は、ネジの種類に合ったドライバーを使用してください。

- 5** 増設メモリカバーを取りはずす
- 6** 増設メモリを固定している左右のフックを開き、増設メモリを増設メモリスロットから取りはずす
斜めに持ち上がった増設メモリを引き抜きます。



- 7** 増設メモリカバーを取り付けて、手順4ではずしたネジでとめる
- 8** バッテリーパックを取り付ける
- ☞ バッテリーパックの取り付け ☞ 「3章 1-4 バッテリーパックを交換する」

5

便利な機能

本章では、環境設定のユーティリティについて説明します。

- 1 消費電力を節約する 122
- 2 東芝 HW セットアップ 128
- 3 スーパーバイザパスワード 135

本製品には、パソコン本体を省電力で使うための機能が用意されています。これらの機能を使うと、使用目的や環境に合わせて簡単に省電力設定が行えます。

「東芝省電力ユーティリティ」で省電力設定を行うことによって、パソコン本体のバッテリー消費電力を抑え、より長い時間お使いいただけます。

● 起動方法

- 1 [スタート] - [設定] - [コントロールパネル] をクリックする
- 2 [東芝省電力] をダブルクリックする

タスクバーの省電力アイコン () をダブルクリックしても起動できます。



● **【電源設定】 タブ**

使用目的や使用環境（モバイル、会社、家など）に合わせて、省電力モードを設定したり、複数の省電力モードを作成できます。環境が変化したときに省電力モードを切り替えるだけで、簡単にパソコンの電源設定を変更することができ、快適にご使用いただけます。

また、現在の電源やバッテリー残量などの詳細情報も表示します。

〔電源に接続〕〔バッテリーを使用中〕には、設定可能な省電力モードの一覧が表示されますので、ご使用したい省電力モードに設定します。〔電源に接続〕〔バッテリーを使用中〕は AC アダプタに接続している／していない状態によって、自動的に切り替わります。

ご購入時にはあらかじめ次の4つの省電力モードが用意されています。すべての省電力モードを、使用環境や状態に合わせて詳細設定したり、コピー、名前の変更などが行えます。また、新しい省電力モードを作成することもできます。

省電力モードの詳細設定は、その省電力モードのプロパティ画面で行います。「本節 省電力モードの詳細設定」をご覧ください。

フルパワー

最高性能で動作します。消費電力が一番大きいモードです。ご購入時の初期状態では、〔電源に接続〕（ACアダプタを使用するとき）がこのモードに設定されています。

ロングライフ

消費電力を優先して省電力制御を行います。

ノーマル

性能と消費電力を両立して省電力制御を行います。ご購入時の初期状態では、〔バッテリーを使用中〕（バッテリーを使用するとき）がこのモードに設定されています。

ハイパワー

性能を優先して省電力制御を行います。

● 省電力モードの作成

- 1 新しく作成する省電力モードのもとになる省電力モードをクリックする
- 2 [コピー] ボタンをクリックする
[~のコピー] という省電力モードができます。
- 3 その省電力モードの名前を変更する
名前を変更した後、作成した省電力モードの詳細を設定してください。
☞ 「本項 省電力モードの詳細設定」

● 省電力モードの削除

- 1 削除する省電力モードをクリックする
- 2 [削除] ボタンをクリックする



- ・ [元に戻す] ボタンをクリックすると直前に行なった削除をキャンセルすることができますが、[閉じる] ボタンをクリックした後には元に戻すことはできません。
- ・ ご購入時に用意されている4つの省電力モードを削除することはできません。

[タスクバーに省電力モードの状態を表示する]

ここをチェックすると現在の省電力モードを示す省電力アイコンがタスクバーに表示されます。ここのチェックをはずすとアイコンは表示されません。省電力アイコンを表示させておくと、そのアイコンをダブルクリックすることにより、東芝省電力ユーティリティを開くことができます。

● [休止状態] タブ

休止状態を使用するかしないかの設定を行います。
使用する場合は、[休止状態をサポートする] をチェックします。

● 省電力モードの詳細設定

省電力モードに関する詳細設定を行います。

● 起動方法

- 1 [電源設定] タブで利用したい省電力モードを選択し、[詳細] ボタンをクリックする



● [全般] タブ

省電力モードのアイコンを変更したり、その省電力モードを作成した目的や使用環境などを記述できます。また、ここで設定したプログラムがアクティブになったとき、自動的にこの省電力モードに切り替わるように設定できます。

● [省電力] タブ

省電力に関する設定を自由に編集することができます。ここでは、ディスプレイやハードディスクの電源を切る時間、ディスプレイの輝度、CPUの処理速度などを設定します。



メモ

- ・ディスプレイを最高輝度に設定していても、パソコン本体をバッテリー駆動で使用しているときは、ACアダプタを接続したときより画面が多少暗く表示されます。

● [動作] タブ

ここでは、電源スイッチを押したときやパソコンのディスプレイを閉じたとき、システムスタンバイのときの動作を設定します。



メモ

- ・ここに表示している動作設定を他の省電力モードにも設定する場合には、[現在の設定をすべてのモードで使用する] ボタンをクリックします。

スタンバイ

パソコン本体の電源を切ったときに、メモリの内容を保持する機能です。次に電源を入れると、以前の状態を再現します。



お願い

- ・次のような場合はスタンバイが無効になり、本体内の記憶内容が変化し、消失するおそれがあります。
 - ・誤った使いかたをしたとき
 - ・静電気や電氣的ノイズの影響を受けたとき
 - ・長時間使っていないために、バッテリーが消耗したとき
 - ・故障、修理、電池交換のとき
 - ・電源を切った直後にすぐ電源を入れたとき
 - ・バッテリー駆動で使用しているときにバッテリーパックを取りはずしたとき
 - ・増設メモリの取り付け／取りはずしをしたとき

休止状態

パソコン本体の電源を切ったときに、メモリの内容をハードディスクに保存する機能です。次に電源を入れると、以前の状態を再現します。この機能はパソコン本体に対しての機能です。周辺機器には働きません。



お願い

- ・ 休止状態中は、メモリの内容をハードディスクに保存します。Disk LED が点灯中は、バッテリーパックをはずしたり、ACアダプタを抜いたりしないでください。データが消失します。
- ・ 休止状態中に増設メモリの取り付け／取りはずしを行わないでください。休止状態が無効になり、データが消失するおそれがあります。
- ・ 休止状態が有効（[東芝省電力] - [休止状態] タブの [休止状態をサポートする] がチェックされている）の場合は、動作中にバッテリー充電量が減少すると、休止状態を実行して電源を切ります。休止状態が無効の場合、スタンバイ機能を実行して電源が切れますので、休止状態を有効にしておくことをおすすめします。

98

ドライブCを、Windows のシステムツールである「ドライブスペース」や市販の圧縮ユーティリティで圧縮すると、休止状態が使用できなくなります。休止状態を使用する際は、元の状態に復元してください。

電源オフ

Windows を終了して電源を切ります。

● スタンバイおよび休止状態から回復するときにパスワードの入力を求める

ここにチェックを入れると Windows のパスワードを入力しないとスタンバイ状態や休止状態から復活できないようになります。

● [アラーム] タブ

[アラーム] タブは [電源設定] タブで [バッテリーを使用中] に登録された省電力モードを選択した場合に表示されます。

98

バッテリー残量が少なくなったことをユーザに通知する方法や実行する動作を設定します。

2000

バッテリー残量が少なくなったことをユーザに通知する方法、実行する動作やプログラムを設定します。

2 東芝 HW セットアップ

東芝 HW セットアップは、ハードウェアの各種機能を設定するユーティリティです。

● 起動方法

1 [スタート] - [設定] - [コントロールパネル] をクリックする

2 [東芝 HW セットアップ] をダブルクリックする

[General] タブ以外のタブには、各項目の他に [標準設定] ボタンと [復元] ボタンが表示されます。

[標準設定] ボタン

東芝 HW セットアップのすべての項目の設定をご購入時の状態に戻します。

[復元] ボタン

設定を変更する前の状態に戻します。

詳細については、東芝 HW セットアップのヘルプをご覧ください。

● ヘルプの起動方法

1 [東芝 HW セットアップ] を起動後、**?** をクリックする
ポインタが **?** に変わります。

2 画面上の知りたい項目にポインタを置き、クリックする

● 詳細設定

● [General] タブ

BIOS のバージョンやハードディスクドライブのモード、メモリ容量などを表示します。このタブでは設定の変更はできません。



メモ

・BIOS (バイオス : Basic Input Output System) :
パソコンを動作させるために必要となる基本的なプログラムを集めたもの。

● [Password] タブ

パソコンの電源を入れたときに入力するパスワードの設定や削除を行います。

User Password

- Not Registered
ユーザパスワードを設定しません。
- Registered
ユーザパスワードを設定します。

ユーザパスワードの設定

- ① [User Password] の [Registered] をチェックする
- ② [Enter Password] にパスワードを入力し、[OK] ボタンをクリックする

使用できる文字	アルファベット(半角)	A B C D E F G H I J K L M N O P Q R S T U V W X Y Z
	数字(半角)	0 1 2 3 4 5 6 7 8 9
	記号(単独のキーで入力できる文字の一部)	- ^ @ [] ; : , . / (スペース)
使用できない文字	<ul style="list-style-type: none"> ・全角文字(2バイト文字) ・日本語入力システムの起動が必要な文字 【例】漢字、カタカナ、ひらがな、日本語入力システムが供給する文字 など ・単独のキーで入力できない(入力するときに[Shift]キーなどを使用する)文字 【例】 (バーチカルライン)、& (アンド)、 ~ (チルダ) など ・¥ (エン)  キーや  キーを押すと¥が入力されます。 	

- ③ [Verify Password] に同じパスワードを入力し、[OK] ボタンをクリックする
- ④ 表示されるメッセージを確認し、[OK] ボタンをクリックする

 ● パスワードを登録／削除した後、電源を切る前にリセットスイッチを押すと、設定した内容が無効になります。

 ● パスワードを設定した場合は、忘れてしまったときのために、必ずパスワードを控えておくことをおすすめします。
● パスワードを忘れてしまった場合は、お近くの保守サービスにご依頼ください。
パスワードの解除を保守サービスにご依頼される場合は有償です。またそのとき、身分証明書(お客様ご自身を確認できるもの)の提示が必要となります。

ユーザパスワードの削除

- ① [User Password] の [Not Registered] をチェックする
- ② [Enter Password] に登録してあるパスワードを入力し、[OK] ボタンをクリックする
パスワードが削除されます。
- ③ 表示されるメッセージを確認し、[OK] ボタンをクリックする



・パスワードの入力エラーが3回続いた場合は、パスワード削除の操作ができなくなります。この場合は、パソコン本体の電源を入れ直し、再度設定を行なってください。

本製品ではユーザパスワードの他に、パソコン本体の環境設定を管理する人のために用意されているスーパーバイザパスワードが設定できます。

☞ スーパーバイザパスワード ☞ 「本章 3 スーパーバイザパスワード」

● [Device Config] タブ

パソコンが起動したときに BIOS が初期化する装置を指定します。

Device Configuration

● All Devices

すべての装置を初期化します。通常はこちらに設定します。

● Setup by OS

システムをロードするのに必要な装置のみ初期化します。それ以外の装置はシステムが初期化します。

● [Parallel/Printer] タブ

プリンタなど、パラレルポートに接続する機器の設定をします。ご使用になるプリンタ、またはその他の機器にあわせて設定してください。

Parallel Port Mode

● ECP

ECP 対応に設定します。大半のプリンタでは ECP に設定します。

● Standard Bi-directional

双方向に設定します。一部のプリンタ、またはプリンタ以外のパラレルインタフェース機器を使用する場合に設定します。

● [Pointing Devices] タブ

アキュポイントⅡやマウスについて設定します。

Pointing Devices

● Auto-Selected

システム起動時に、PS/2 マウスが接続されている場合は、PS/2 マウスだけが使用できます。システム起動時に、PS/2 マウスが接続されていない場合は、アキュポイントⅡだけが使用できます。

● Simultaneous

アキュポイントⅡとPS/2 マウスを同時に使用できます。



・PS/2 マウスの仕様によっては、[Simultaneous] に設定しても、アキュポイントⅡと同時に使用できない場合があります。その場合は、[Auto-Selected] に設定し、PS/2 マウスだけで使用してください。

● [Display] タブ

表示する装置を選択します。

Power On Display

● Auto-Selected

システム起動時に、外部 CRT ディスプレイが接続されている場合は、外部 CRT ディスプレイだけに表示します。システム起動時に、外部 CRT ディスプレイが接続されていない場合は、本体のディスプレイに表示します。

● Simultaneous

外部ディスプレイと本体のディスプレイの両方に表示します。

☞ CRT ディスプレイの接続

⇨ 「4章 7 CRT ディスプレイを接続する」

● [Boot Priority] タブ

Boot Priority Options

システムを起動するディスクドライブの順番を選択します。
通常は [FDD → HDD → CD-ROM → LAN] に設定してください。

Power On Boot Select

電源を入れたときに、メニュー起動メッセージを表示するかどうかを設定します。

● Enabled

メニュー起動メッセージを表示します。
電源を入れると、「TOSHIBA」のロゴの下に、次の「メニュー起動メッセージ」が1、2秒間表示されます。

Press [F2] for the boot device selection menu

このメッセージが表示されている間に[F2]キーを押すと、起動するドライブの選択メニュー画面が表示されます。起動したいドライブに対応したキーを押すと、一時的にそのドライブを起動最優先ドライブに設定し、起動します。

● Disabled

メニュー起動メッセージを表示しません。

● [Keyboard] タブ

キーボードについて設定します。

External Keyboard Fn Key

PS/2 外部キーボードで[Fn]キーの代わりに使用できるキーを設定します。
[Fn]キーの割り当てをしない場合は、[Disable] に設定します。
USB キーボードには設定できません。

● [USB] タブ

USB 機器について設定します。

USB KB/Mouse Legacy Emulation

USB キーボードやマウスのレガシーサポートを行うかどうかを設定します。

● Disabled

レガシーサポートを行いません。通常はこちらに設定します。

● Enabled

レガシーサポートを行います。ドライバなしで USB キーボード、USB マウスが使用可能になります。

USB-FDD Legacy Emulation

USB フロッピーディスクドライブのレガシーサポートを行うかどうかを設定します。

● Disabled

レガシーサポートを行いません。通常はこちらに設定します。

● Enabled

レガシーサポートを行います。フロッピーディスクドライブから起動する場合は、こちらに設定します。

● [LAN] タブ

LAN 機能について設定します。

Wake-up on LAN

ネットワークで接続された管理者のパソコンからの呼び出しにより、自動的に電源を入れます。Wake-up on LAN 機能を使用する場合は、必ず AC アダプタを接続してください。

● Enabled

Wake-up on LAN 機能を使用します。

● Disabled

Wake-up on LAN 機能を使用しません。

Internal LAN

別売りのマルチメディアポートリプリケータを取り付けて使用する場合、本体とマルチメディアポートリプリケータいずれかの LAN インタフェースを使用するかを切り替えます。

● Used

パソコン本体の LAN コネクタを使用します。

● Notused

マルチメディアポートリプリケータの LAN コネクタを使用します。

● [Hardware Alarm] タブ

本体のアラーム音について設定します。

Hardware Alarm Options

● Alarm Volume

アラームの音量をスライダバーで調整します。

・ Low Battery Alarm

バッテリー消費時の警告音を鳴らす場合は、チェックします。

・ Panel Close Alarm

ディスプレイが閉じたことを知らせる警告音を鳴らす場合は、チェックします。

● System Beep

「Low Battery Alarm」「Panel Close Alarm」以外のビーブ音を鳴らす場合は、チェックします。

3 スーパーバイザパスワード

本製品では、電源を入れたとき、スタンバイやインスタントセキュリティ状態から復帰するときに入力をするパスワードを設定できます。

パスワードには、ユーザパスワードとスーパーバイザパスワードがあります。

通常はユーザパスワードを登録してください。

☞ ユーザパスワード ☞ 「本章 2 東芝 HW セットアップ」

本節では、スーパーバイザパスワードについて説明します。



メモ

- ・パスワードは、スーパーバイザパスワードとユーザパスワードでは、違うものを使用してください。
- ・パスワードを登録／削除した後、電源を切る前にリセットスイッチを押すと、設定した内容が無効になります。

● パスワードとして使用できる文字

パスワードに使用できる文字は次のとおりです。

パスワードは「****（アスタリスク）」で表示されますので画面で確認できません。よく確認してから入力してください。

使用できる文字	アルファベット(半角)	A B C D E F G H I J K L M N O P Q R S T U V W X Y Z
	数字(半角)	0 1 2 3 4 5 6 7 8 9
	記号(単独のキーで入力できる文字の一部)	- ^ @ [] ; : , . / (スペース)
使用できない文字	<ul style="list-style-type: none">・全角文字(2バイト文字)・日本語入力システムの起動が必要な文字 【例】漢字、カタカナ、ひらがな、日本語入力システムが供給する文字 など・単独のキーで入力できない(入力するときに[Shift]キーなどを使用する)文字 【例】 (バーチカルライン)、& (アンド)、 ~ (チルダ) など・¥ (エン) [¥]キーや[]キーを押すと¥が入力されます。	

● スーパーバイザパスワード設定ツール

スーパーバイザパスワードは、パソコン本体の環境設定を管理する人のために用意されています。

スーパーバイザパスワードを登録すると、スーパーバイザパスワードを知らないユーザは、セットアッププログラムの設定を変更できないようにする、などいくつかの制限を加えることができます。

この制限を加える必要がなければ、ユーザパスワードだけ登録してください。

● 起動方法

- 1 [スタート] - [ファイル名を指定して実行] をクリックする
- 2 [C:¥Program Files¥Toshiba¥Windows Utilities¥SVPWTool¥SVPW32.exe] と入力する
- 3 [OK] ボタンをクリックする

詳細については、「README.HTM」をご覧ください。

● README の起動方法

- 1 [スタート] - [ファイル名を指定して実行] をクリックする
- 2 [C:¥Program Files¥Toshiba¥Windows Utilities¥SVPWTool¥README.HTM] と入力する
- 3 [OK] ボタンをクリックする

● パスワードの入力

ユーザパスワードが設定されている場合、電源を入れると次のようになります。

- 「Password= 」と表示される
- 画面が消えた状態になる（タスクスケジューラまたはタイマ・オン機能が設定されているとき）

この場合は、次のようにするとパソコン本体が起動します。

- 1 パスワードを入力し、**Enter** キーを押す

Arrow Mode  LED、Numeric Mode  LED は、パスワードを設定したときと同じ状態にしてください。



・パスワードの入力ミス を 3 回繰り返した場合は、自動的に電源が切れます。電源を入れ直してください。

● 起動時にユーザパスワードを入力した場合

インスタントセキュリティ状態、スタンバイ、休止状態を実行して電源を切った場合、再びパソコン本体を起動するには、ユーザパスワードを入力してください。



メモ

・スーパーバイザパスワードでユーザパスワードからの起動による制限事項を設定している場合、ユーザパスワードで起動すると制限を受けます。

● 起動時にスーパーバイザパスワードを入力した場合

インスタントセキュリティ状態、スタンバイ、休止状態（98）を実行して電源を切った場合、再びパソコン本体を起動するにはスーパーバイザパスワードを入力してください。ユーザパスワードの入力は受け付けません。



休止状態を実行して電源を切った場合、再びパソコン本体を起動するには、ユーザパスワードまたはスーパーバイザパスワードを入力してください。



メモ

・スーパーバイザパスワードでユーザパスワードからの起動による制限事項を設定している場合、ユーザパスワードで起動すると制限を受けます。

6

再セットアップ

本製品に同梱されているカスタム・リカバリ CD またはリカバリ CD を使って、システムやアプリケーションをご購入時の状態に戻すことができます。本章では、カスタム・リカバリ CD およびリカバリ CD の使いかたについて説明します。

1	再セットアップとは	140
2	カスタム・リカバリ CD / リカバリ CD とは	141
3	標準システムを復元する	142
4	最小構成でシステムを復元する (Windows 98)	147
5	標準システムインストール起動ディスクを使う ..	150
6	アプリケーションを再インストールする (Windows 98)	154

1 再セットアップとは

システムやアプリケーションをご購入時の状態にリカバリ（復元）することを再セットアップといいます。

● 再セットアップが必要なとき

次のようなときに、再セットアップしてください。

- Cドライブをフォーマットしてしまった
- ハードディスク内のシステムファイルを削除してしまった
- 電源を入れても、システム（Windows）が起動しない
- パソコンが正しく動作しない
- プレインストールされていたアプリケーションを削除したが、もう1度インストールしたい など

● 再セットアップする前に

「7章 困ったときは」に、いろいろなトラブル解決方法が書かれています。そちらをご覧くださいのうえ、解決できないときに再セットアップしてください。再セットアップすると、ハードディスク内に保存されていたデータは、すべて消えてしまいます。ご購入後に作成したファイルなど、必要なデータは、あらかじめフロッピーディスクなどに保存してください。また、ハードウェアなどの設定は、すべてご購入時の状態に戻ります。再セットアップ後も現在と同じ設定でパソコンを使いたい場合は、現在の設定を控えておいてください。

● CDのドライブについて

再セットアップするときには、CDのドライブ（別売り）が必要です。本製品では次のCDドライブが使用できます。

- ・ CD-ROM ドライブ（PA2671UJまたはPA2673UJ）
- ・ CD-R/RW ドライブ（PACDR002）
- ・ マルチメディアポートリプリケータのCD-ROM ドライブ

上記以外のドライブをお使いになる場合には「標準システムインストール起動ディスク」が必要です。あらかじめ作成しておくことをおすすめします。

☞ 詳細について

⇒ 「本章 5 標準システムインストール起動ディスクを使う」

① カスタム・リカバリCDとは (Windows 98)

Windows 98 モデルには次のカスタム・リカバリCDが同梱されています。

- Product Recovery CD-ROM
- アプリケーション&ドライバCD-ROM

カスタム・リカバリCDは、再セットアップのときに使用します。再セットアップには、次の方法があります。

- 標準システムを復元する

ご購入時の状態に戻します。プレインストールされているアプリケーションもすべて復元されます。

☞ 「本章 3 標準システムを復元する」

- 最小構成でシステムを復元する

Windows のみを復元します。デバイスドライバやアプリケーションなどはインストールされません。

☞ 「本章 4 最小構成でシステムを復元する」

- アプリケーションやドライバごとに再インストールする

プレインストールされているアプリケーションを再インストールできます。

☞ 「本章 6 アプリケーションを再インストールする」



メモ

・カスタム・リカバリCDは絶対なくさないようにしてください。紛失した場合、再発行することはできません。

② リカバリCDとは (Windows 2000)

Windows 2000 モデルには次のリカバリCDが同梱されています。

- リカバリCD (Product Recovery CD-ROM)
- アプリケーションCD (Application CD-ROM)

リカバリCDは、再セットアップのときに使用します。

アプリケーションCDには、本製品で用意されているアプリケーションが入っています。

用意されているアプリケーションなどの一覧および概要、注意事項とインストール方法については、アプリケーションCDをセットし、表示される画面をご覧ください。



メモ

・リカバリCDとアプリケーションCDは絶対なくさないようにしてください。紛失した場合、再発行することはできません。

3 標準システムを復元する

本製品にあらかじめインストールされている Windows やアプリケーションを復元し、ご購入時の状態に戻します。

1 準備

次のものを使用します。

- Product Recovery CD-ROM
- 取扱説明書（本書）
- 下記のいずれかの外付け CD ドライブ（別売り）
 - ・ CD-ROM ドライブ（PA2671UJ または PA2673UJ）
 - ・ CD-R/RW ドライブ（PACDR002）
 - ・ マルチメディアポートリプリケータの CD-ROM ドライブ

上記以外のドライブをお使いになる場合は「標準システムインストール起動ディスク」が必要です。

☞ 詳細について

⇒ 「本章 5 標準システムインストール起動ディスクを使う」

2 操作手順

● Windows 98 モデルの場合



注意

・復元する前にハードディスクのフォーマットを行います。ハードディスクの内容はすべて削除されますので、必要なデータがある場合には、あらかじめフロッピーディスクなどに保存してください。ハードウェア構成を変更している場合は、本パソコンをご購入時の状態に戻してから、システムの復元を行なってください。

- 1 パソコンの電源を切る
- 2 パソコンをご購入時の状態に戻す
増設したハードディスクドライブや周辺機器などは取りはずしてください。
- 3 パソコンに CD のドライブを接続し、「Product Recovery CD-ROM Disk1」をセットする

4 キーボードの[C]キーを押しながら、パソコンの電源を入れる
「復元する構成を選択してください」のメッセージが表示されます。

5 [I]キーを押す

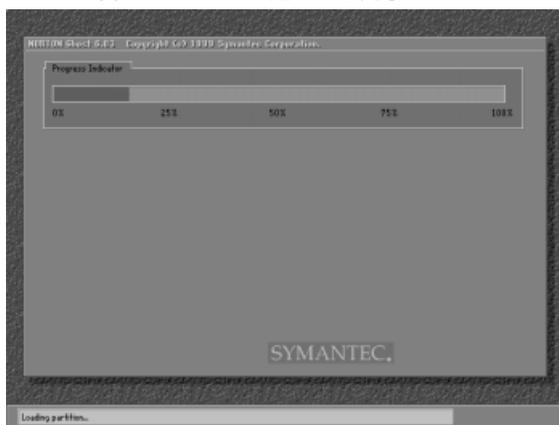
「ハードディスクの内容は、すべて削除されます！」のメッセージが表示されます。

6 [Y]キーを押す

処理を中止する場合は、[N]キーを押してください。

復元中は、次の画面が表示されます。

復元の進行状況を示すグラフが100%まで伸びた後、もう1度0%から始まります。グラフが2度めに100%に達すると完了です。



7 CDを取り出し、パソコンからCDのドライブなどの周辺機器をすべて取りはずしてから、何かキーを押す
システムが再起動します。

8 Windowsのセットアップを行う

☞ Windowsのセットアップについて

⇒ 「2章 2 初めて電源を入れるとき」

Windows 2000 モデルの場合



注意

・復元する前にハードディスクのフォーマットを行います。ハードディスクの内容はすべて削除されますので、必要なデータがある場合には、あらかじめフロッピーディスクなどに保存してください。ハードウェア構成を変更している場合は、本パソコンをご購入時の状態に戻してから、システムの復元を行なってください。



・ご購入時の状態でシステムを復元した場合、次のようなパーティションがハードディスクに作成されています。

Cドライブ：NTFSシステム

- 1 パソコンの電源を切り、パソコンをご購入時の状態に戻す
増設したハードディスクドライブや周辺機器などは取りはずしてください。
- 2 パソコンにCDのドライブを接続し、「Product Recovery CD-ROM Disk1」をセットする
- 3 キーボードの[C]キーを押しながら、パソコンの電源を入れる
TOSHIBAのロゴが表示されたら[C]キーを離します。
「復元を開始します！よろしいですか？」というメッセージが表示されます。
- 4 復元を行う場合は[Y]キーを押す
行わない場合は[N]キーを押す
[Y]キーを押すと「ハードディスクの内容は、すべて削除されます！」というメッセージが表示されます。
- 5 復元の処理を開始する場合には、[Y]キーを押す
処理を中止する場合には、[N]キーを押す

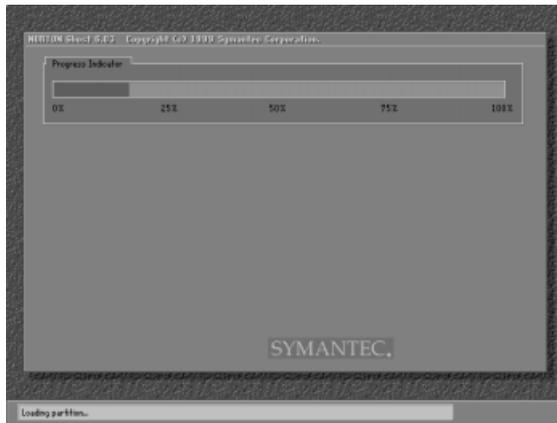
6 表示されるメッセージを確認し、何かキーを押す



ここで表示される画面は、復元の途中で表示されるメッセージについての説明です。内容をご確認のうえ、そのまま何かキーを押してください。

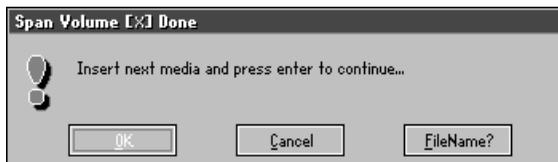
復元中は、次の画面が表示されます。

復元の進行状況を示すグラフが100%まで伸びた後、もう1度0%から始まります。グラフが2度めに100%に達すると完了です。



7 表示されるメッセージに従って復元を行う

復元中に次のメッセージが表示された場合には、CD を入れ替えて **[Enter]** キーを押してください。処理が続きます。



復元が完了すると、終了画面が表示されます。

8 CD を取り出し、パソコンから CD のドライブなどの周辺機器をすべてを取りはずしてから、何かキーを押す

システムが再起動します。

9 パソコンの電源を入れ、Windows のセットアップを行う

☞ Windows のセットアップについて

⇒ 「2 章 2 初めて電源を入れるとき」

4

最小構成でシステムを復元する (Windows 98)

Windows 98 モデルでは、Windows のみを復元することができます。最小構成でシステムを復元しますので、ご購入時にプレインストールされていたデバイスドライバやアプリケーションなどはインストールされません。Windows のセットアップ終了後、本製品に同梱されている「アプリケーション&ドライバ CD-ROM」から、必要なデバイスドライバおよびアプリケーションをインストールしてください。



メモ

- ・最小構成で復元した場合は、デバイスドライバやアプリケーションはインストールされません。本製品の機能をすべてご利用になるには、アプリケーション&ドライバ CD-ROM よりデバイスドライバなどをインストールする必要がありますので、通常は標準システムを復元することをおすすめします。
- ・最小構成で復元した場合は、Windows のセットアップ画面が、パソコンのご購入後初めて電源を入れるとき、または標準システムの復元時と異なります。また、Windows のセットアップに時間がかかります。途中、作業画面が止まったように見えるときがありますが、間違って電源を切ったりしないでください。

1 準備

次のものを使用します。

- Product Recovery CD-ROM
- 取扱説明書 (本書)
- 下記のいずれかの外付け CD ドライブ (別売り)
 - ・ CD-ROM ドライブ (PA2671UJ または PA2673UJ)
 - ・ CD-R/RW ドライブ (PACDR002)
 - ・ マルチメディアポートリプリケータの CD-ROM ドライブ

上記以外のドライブをお使いになる場合は「標準システムインストール起動ディスク」が必要です。

☞ 詳細について

⇒ 「本章 5 標準システムインストール起動ディスクを使う」



メモ

- ・ネットワークを介して接続されたドライブは使用できません。
- ・最小構成でシステムを復元する場合でも、標準システムを復元する場合と同じディスク使用量 (ご購入時のディスク使用量) が必要です。

また、Windows セットアップ時に Product Key の入力が必要です。Product Key はパソコン本体に貼られているラベルに印刷されています。あらかじめ紙などに書き写しておいてください。

② 操作手順



注意

・復元する前にハードディスクのフォーマットを行います。ハードディスクの内容はすべて削除されますので、必要なデータがある場合には、あらかじめフロッピーディスクなどに保存してください。ハードウェア構成を変更している場合は、本パソコンをご購入時の状態に戻してから、システムの復元を行なってください。

- 1 パソコンの電源を切る
- 2 パソコンをご購入時の状態に戻す
増設したハードディスクドライブや周辺機器などは取りはずしてください。
- 3 パソコンにCDのドライブを接続し、「Product Recovery CD-ROM Disk 1」をセットする
- 4 キーボードの[C]キーを押しながら、パソコンの電源を入れる
「復元する構成を選択してください」のメッセージが表示されます。
- 5 [2]キーを押す
「ハードディスクの内容は、すべて削除されます！」のメッセージが表示されます。
- 6 [Y]キーを押す
処理を中止する場合は、[N]キーを押してください。

復元中は、次の画面が表示されます。

復元の進行状況を示すグラフが100%まで伸びた後、もう1度0%から始まります。グラフが2度めに100%に達すると完了です。



- 7 CDを取り出し、パソコンからCDのドライブなどの周辺機器をすべて取りはずしてから、何かキーを押すシステムが再起動します。
- 8 Windowsのセットアップを行う

システムの復元には、次のいずれかの CD ドライブ（別売り）が使用できます。

- ・ CD-ROM ドライブ（PA2671UJ または PA2673UJ）
- ・ CD-R/RW ドライブ（PACDR002）
- ・ マルチメディアポートリプリケータの CD-ROM ドライブ

上記以外のドライブをお持ちの場合、「標準システムインストール起動ディスク」を使用することで、システムの復元ができます。

次の手順で「標準システムインストール起動ディスク」をあらかじめ作成しておいてください。

起動ディスクを作成するには、別売りの USB 接続フロッピーディスクドライブ（PA2680UJ）が必要です。

1 Windows 98 の場合

● 作成方法

- 1 フォーマット済みのフロッピーディスクを 2 枚用意し、ラベル（「標準システムインストール起動ディスク 1/2」、「標準システムインストール起動ディスク 2/2」）を付ける
- 2 パソコンにフロッピーディスクドライブを接続し、1 枚目のフロッピーディスクをセットする
- 3 [スタート] - [プログラム] - [東芝ユーティリティ] - [標準システムインストール起動ディスクの作成] をクリックする
- 4 メッセージに従ってフロッピーディスクを交換する

● 使用方法



お願い

・USB 接続フロッピーディスクドライブをお使いの場合は、「東芝 HW セットアップ」の [USB] タブで、[USB-FDD Legacy Emulation] を [Enabled] に設定してください。「東芝 HW セットアップ」を起動できない場合は、次の手順で設定を行なってください。

- ① **[Esc]** キーを押しながらパソコンの電源を入れる
「Check system.Then press [F1] key.」と表示されます。
- ② **[F1]** キーを押す
「System Setup (1/2)」の画面が表示されます。
- ③ **[↓]** キーを押し、カーソルを [PERIPHERAL] の [USB-FDD Legacy Emulation] の値に合わせる
- ④ 値が [Disabled] の場合は、**[Space]** または **[BackSpace]** キーを押し、値を [Enabled] にする
次に **[End]** キーを押し、**[Y]** キーを押す

値が [Enabled] の場合は、**[Esc]** キーを押し、**[Y]** キーを押す
パソコンが再起動します。

1 Windows を終了してパソコンの電源を切る

増設したハードディスクドライブや PC カードなどの周辺機器などは取りはずしてください。

2 パソコンにフロッピーディスクドライブを接続し、「標準システムインストール起動ディスク 1/2」をセットする

3 パソコンの電源を入れる

4 使用する CD のドライブのメーカー、および機種名を選択する

メニュー一覧にお手持ちのドライブが表示されない場合は、[手動インストール] を選択して、手動で設定を行なってください。

「復元する構成を選択してください」のメッセージが表示されます。

5 **[1]** キーを押す

「ハードディスクの内容は、すべて削除されます！」のメッセージが表示されます。

6 **[Y]** キーを押す

処理を中止する場合は、**[N]** キーを押してください。

- 7 フロッピーディスクを入れかえるメッセージが表示されたら、「標準システムインストール起動ディスク 2/2」をセットし、何かキーを押す

処理が続きます。

処理が終了すると、「準備が完了しました！」と表示されます。



メモ

・「標準システムインストール起動ディスク 2/2」の処理が終わったとき、CD-ROM ドライブなどのドライバの入ったフロッピーディスクをセットするようメッセージが表示される場合があります。この場合は、フロッピーディスクをセットして処理を続けてください。

- 8 パソコンの電源を切り、フロッピーディスクドライブを取りはずす

- 9 CD のドライブを接続し、「Product Recovery CD-ROM Disk1」をセットする

- 10 パソコンの電源を入れる

CD のドライブを自動認識し、システムのインストールが始まります。

- 11 表示されるメッセージに従って、システムのインストールを行う

② Windows 2000 の場合

● 作成方法

- 1 フォーマット済みのフロッピーディスクを 1 枚用意し、ラベル（「標準システムインストール起動ディスク」）を付ける
- 2 パソコンにフロッピーディスクドライブを接続し、フロッピーディスクをセットする
- 3 [スタート] - [プログラム] - [東芝ユーティリティ] - [標準システムインストール起動ディスクの作成] をクリックする
- 4 使用する CD のドライブのメーカー、および機種名を選択する
メニュー一覧にお手持ちのドライブが表示されない場合は、[手動インストール] を選択して、手動で設定を行なってください。

● 使用方法



お願い

・USB接続フロッピーディスクドライブをお使いの場合は、「東芝HWセットアップ」の[USB]タブで、[USB-FDD Legacy Emulation]を[Enabled]に設定してください。「東芝HWセットアップ」を起動できない場合は、次の手順で設定を行なってください。

- ① **[Esc]**キーを押しながらパソコンの電源を入れる
「Check system.Then press [F1] key.」と表示されます。
- ② **[F1]**キーを押す
「System Setup (1/2)」の画面が表示されます。
- ③ **[↓]**キーを押し、カーソルを[PERIPHERAL]の[USB-FDD Legacy Emulation]の値に合わせる
- ④値が[Disabled]の場合は、**[Space]**または**[BackSpace]**キーを押し、値を[Enabled]にする
次に**[End]**キーを押し、**[Y]**キーを押す

値が[Enabled]の場合は、**[Esc]**キーを押し、**[Y]**キーを押す
パソコンが再起動します。

1 Windowsを終了してパソコンの電源を切る

増設したハードディスクドライブやPCカードなどの周辺機器などは取りはずしてください。

2 パソコンにフロッピーディスクドライブを接続し、「標準システムインストール起動ディスク」をセットする

3 CDのドライブを接続し、「Product Recovery CD-ROM Disk1」をセットする

4 パソコンの電源を入れる

5 **[Y]**キーを押す

「ハードディスクの内容は、すべて削除されます！」のメッセージが表示されます。

6 **[Y]**キーを押す

処理を中止する場合は、**[N]**キーを押してください。

CDのドライブを自動認識し、システムのインストールが始まります。

7 表示されるメッセージに従って、システムのインストールを行う



6 アプリケーションを再インストールする (Windows 98)

Windows 98 モデルにプレインストールされているアプリケーションやドライバを一度削除してしまっても、システムの復元を行うことなく、アプリケーションごとに再インストールすることができます。

再インストールには「アプリケーション&ドライバ CD-ROM」を使用します。

1 操作手順

1 パソコンに CD のドライブを接続し、「アプリケーション&ドライバ CD-ROM」をセットする

「アプリケーション&ドライバ CD-ROM」は複数枚入っている場合があります。

2 表示されるメッセージに従ってインストールを行う

[ファイルのダウンロード] 画面が表示された場合は、[このプログラムを上記の場所から実行する] を選択し、[OK] ボタンをクリックしてください。



メモ

・すでにインストールされているアプリケーションを再インストールするときは、コントロールパネルの「アプリケーションの追加と削除」または各アプリケーションのアンインストールプログラムを実行して、アンインストールを行なってください。

アンインストールを行わずに再インストールを実行すると、正常にインストールできない場合があります。ただし、上記のどちらの方法でもアンインストールが実行できないアプリケーションは、上書きでインストールしても問題ありません。